

社説

県内平均寿命

厚生労働省が公表した2015年市区町村別生命表によると、平均寿命全国ワースト10位以内に男女合わせて本県10市町村が入ったことが分かった。同50位以内では、本県で男女計46市町村が含まれた。日本一の「短命県」である本県だけに、具体的に示された全国順位と数値は厳しい結果となったが、一方で短命県の汚名返上に向けた取り組みの指標になるとも言えよう。官民挙げた健康増進策が今後さらに取り組まれていくことに期待を寄せたい。

市区町村別生命表によると、平均寿命が最も短いのは男女とも大阪市西成区だが、男性3〜9位には本県自治体名が並ぶ。3位は平内町(77・6歳)、4位以下はむつ市、中泊町、東北町、階上町、深浦町、平川市と続き、いずれも78・1

歳。女性では、4位に蓬田村(85・2歳)、8、9位にいずれも85・4歳で三戸町、板柳町が入った。

本県の短命県返上に向け、各自治体がさまざまな取り組みを見せる中で、塩分やアルコールが多い食生活や低受診率といった、健康に対する意識の低さが足か

の首長が語っていたように「自分の健康は自分で守る」という意識を持ってもらうよう、地道に取り組んでいく必要があるだろう。

一方で、前回の10年統計から男性が全40市町村、女性が33市町村で平均寿命が延びるといふデータもある。延び幅は男

短命県返上へ取り組み一丸で

せとなつて指摘する自治体もある。実際、各自治体からは野菜摂取量が少ない食生活、肝炎や肝臓がんでの死亡率が高いとの指摘が出た。長期にわたる食習慣や嗜好品の摂取に対して一方的に制止するようなことはできまいが、平均寿命延伸と短命県返上には、津軽地方

の最大が青森市の2・4歳、女性最大は階上町の2・2歳となった。「未来につながる明るい兆しが見える」(三村申吾知事)、「決して悲観することはな

い。県全体の平均寿命は確実に良くなっている」(弘前大学大学院医学研究科・中路重之特任教授)との受け止めがあ

り、次回調査の結果にも期待がかかる。平均寿命だけが延びても、寝たきりであったり、意識がなかったりといった状態はなるべく避けたい。健康上の問題がなく日常生活を制限なく送ることができ、いわゆる「健康寿命」の延伸も大きな課題だ。ここからは初めて厚生労働省から調査結果が公表された10年の調査結果では、本県男性68・95歳と全国最下位、女性73・34歳で同31位だったが、今年3月公表の15年調査結果では男性71・64歳で同34位、女性75・14歳で同20位と大きく上昇している。

本県の健康寿命が年々延びているのはもちろん歓迎すべきことだ。この傾向を維持していくには、平均寿命への取り組みと同じく自ら健康に対する意識を高め、いくことを心掛けたい。